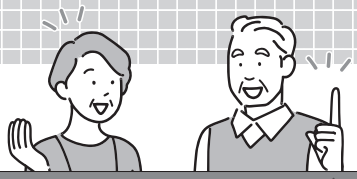


60歳代を楽しく過ごすためのお金との向き合い方

合同会社フィンウェル研究所　代表
野尻　哲史

第13回　満足度が減らない資産の減らし方

1　加齢に伴い満足度に対する視線も動いていく

資産活用のセミナーでは、「何のために資産を作ってきたのでしょうか」という点を常に一緒に考えていただきたいと思っています。「退職後の生活のために」と考えて、現役時代に資産形成を続けてきて出来上がった資産なのに、それを使わなかったら意味がありません。使ってこそ、現役時代の努力が報われるはずです。

しかし、我々はなぜ使うことに躊躇（ちゅうちょ）するのでしょうか。資産が減ってしまえば、その先の生活が心配になるため、できるだけ使わないようにするという意識が強くなるのは当然です。

例えば、60歳で資産2000万円を保有しているとしましょう。「2000万円が1500万円に減ってしまったら心配だ」「1000万円に減ってしまったらさらに気になる」と思うのは自然なことです。

ただ、資産を使って生活をするにも、ある程度の年数を要しますし、その間に自身の年齢も上がっています。にもかかわらず、今の時点での目線に常に固定して見ていないでしょうか。60歳の時点での目線で、その後も見てしまっているのではないでしょうか。

ここに、年齢を加えた視点を持ってみましょう。例えば、60歳、70歳、80歳、90歳それぞれの時点における、2000万円の資産に対する満足度は同じではないはずです。同じ資産額でも、その水準に対する満足度は、60歳代より70歳代、さらに80歳代、90歳代の方が高いと思われます。

にもかかわらず、資産額が減れば満足度は低下するものと想定しているのは、それを判断する時点の目線で固定して見ているからかもしれません。年齢を重ねるたびに、同じ金額でもその後の余命の長さによって満足度が高まることがあるかもしれません。

その時々の自分の目線に置き換えて、その時の資産額に対する満足度を見るという視点も重要だと思います。これは年齢に合わせて、満足度を感じる自分の目線も動かしていくようなものです。

2　同じ資産水準であれば年齢が高いほど満足度が高い

それを確かめる一つのデータがあります。2023年に行った「60代6000人の声」アンケートです。この調査では、回答者6503人に対し、資産水準への満足度を聞いています。これを年齢と資産規模別に集計し、60-62歳の565人と67-69歳の387人のデータだけを比較したのが〔**図表1**〕です。

ここから分かることは、60歳代になったばかりの60-62歳と、もうすぐ70歳代になろうとする67-69歳の資産水準の満足度には、一定の違いがあるということです。

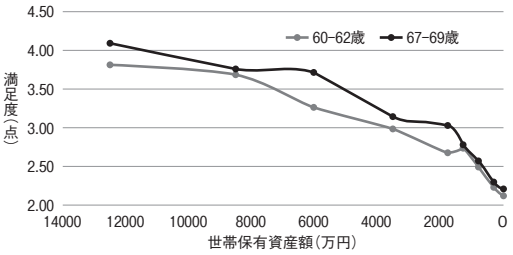
この調査での資産水準に対する満足度は、資産水準に対して「満足できない＝１点」から、「満足している＝５点」までの５段階で回答者が評価をつけて、その平均値を取っています。資産額は右に行くほど少なくなり、資産が減っていくと満足度がどうなるかが分かります。

60-62歳と67-69歳のグラフの形状はどちらも右肩下がりですから、資産額が減少するほど満足度が低下していることが示されています。ただ、67-69歳の線のほうが60-62歳の線よりも上にあるということは、同じ資産額であれば、もうすぐ70歳代になろうとする人の満足度のほうが、60歳代になったばかりの人の満足度よりも高いことを示しています。

具体的な数値をみると、保有資産1501-2000万円の層(グラフでは1750万円の階級値)では、60-62歳が満足度は2.70点ですが、67-69歳は3.03点です。また、その金額よりも多い資産の層では、全て同じ資産額であれば67-69歳の満足度のほうが高いという結果になりました。

満足度が３点、すなわち「どちらでもない」という中庸の水準を横に見ていくと、60-62歳の3001-4000万円の層(グラフでは3500万円の階級値)の資産水準満足度は2.99点で、67-69歳の1501-2000万円の資産水準満足度は3.03点です。つまり、60歳代になったばかりの人にとっての3000万円台の資産が、７～８年経過すると2000万円を若干下回る水準に低下しても、その満足度はほとんど変わらないとみることもできるのです。

〔図表１〕60-62歳と67-69歳の保有資産水準と資産水準満足度の関係



注：60-62歳は565人の回答、67-69歳は387人の回答を集計。
出所：「60代6000人の声」、合同会社フィンウェル研究所、2023年

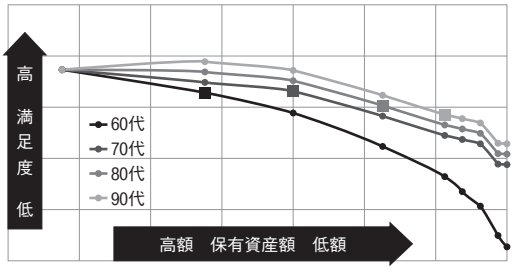
3 年代を含めて資産とその満足度を考える

この結果はどんなことを教えてくれるでしょうか。年代別の満足度の曲線を一つのグラフにしてみました〔**図表２**〕。

このグラフは先ほどのグラフと同様に、横軸に資産額を入れて右に行くほど資産が減っていき、縦軸にはその資産額に対する満足度を上にいくほど高くなるようにしています。それぞれの年代ごとの曲線は、資産の減少が満足度を下げるということを示していますが、年代ごとのその曲線は、年齢が高いほど上にあります。

例えば同じ2000万円の資産を、60歳代が感じる満足度と80歳代が感じる満足度では、80歳代の方が高いということをグ

〔図表２〕年代別の保有資産と満足度の関係（イメージ図）



出所：合同会社フィンウェル研究所

ラフで示しています。

このグラフを使って、年代に合わせて目線を動かすことで資産水準の満足度がどう変化するかを考えてみます。グラフのなかでマーカーが■になっているところを見てください。60歳代の■のところを起点に考えると、そこから生活費に使った分だけ資産額が減ってしまえば、その満足度は低下することになります。

しかし、その間に年齢は高くなるため、グラフの曲線は70歳代のものにシフトします。その場合、資産水準の満足度は70歳代の満足度の曲線で見ることになりますから、減少した資産水準に対する満足度は■の水準に移ります。

80歳代、90歳代において、消費されて資産額が減っても、満足度の曲線がシフトすることで、■の位置はそれほど大きく低下しません。資産水準は減少しているのに、その満足度はそれほど大きく低下していないと見ることができます。

4 取り崩しながらも満足度を維持する方法

こうした見方を前提にすると、生活のために資産を取り崩すことに前向きになれるのではないでしょうか。資産の取り崩し、デキュムレーションの視点で見ると、運用しながら取り崩すことで資産の減り方をコントロールできれば、たとえ資産が減ったとしても、その満足度をそれほど下げないで済む方法に近づくと考えられます。

資産水準の満足度を見るときには、資産額だけではなく、年代も考慮すべき大きな要素のようです。これが資産をうまく活用する際の大切な視点ではないでしょうか。「資産活用」という考え方を追求することは、生活のために資産を少しずつ使いながら、満足度をそれほど引き下げないで済ませる方法を探ることでもありそうです。

のじり　さとし
1959年生まれ。国内外の証券会社調査部を経て、2006年から大手外資系運用会社で投資啓蒙活動を行う。2019年５月の定年を機に合同会社フィンウェル研究所を設立し、代表に。資産の取り崩し、地方都市移住、勤労などに特化した啓発活動をスタート。日本証券アナリスト協会検定会員、日本FP学会、行動経済学会などの会員。2023年10月より金融審議会資産運用タスクフォース委員。著書には『60代からの資産「使い切り」法　今ある資産の寿命を伸ばす賢い「取り崩し」の技術』（日本経済新聞出版）、『IFAとは何者か～アドバイザーとプラットフォーマーのすべて』（金融財政事情研究会）、『老後の資産形成をゼッタイ始める!と思える本』（扶桑社）、『定年後のお金』（講談社＋α新書）、『脱老後難民　英国流資産形成アイデアに学ぶ』（日本経済新聞出版社）など多数。

任意売却の法律と実務 第4版
監修＝上野隆司
著＝高山　満／田中博文／大坪忠雄
村山真一／藤原　勉
A5判・上製・504頁・定価6,600円（税込）
30年以上にわたり読み継がれてきた
唯一無二の実務書、10年ぶりの全面改訂!
◆1992年の初版発行以降、数次にわたり改訂を重ねてきた任意売却の実務に関する定本の最新版!
◆法による定めはなく管理回収業務の基礎的手続と話合いに基づいて進められる任意売却の実務について詳しく解説!
◆課税庁によって行われる無益な差押えの問題に関する章と民事執行法改正・債権法改正に関する章を新たに追加!
◆金融機関の債権回収・審査・融資部門の各担当者および弁護士、司法書士、サービサーにとって待望の改訂版、満を持してついに刊行!!
一般社団法人 金融財政事情研究会　申込先　〒160-8519 東京都新宿区南元町19
電話(03)3358-2891(直通)　FAX(03)3358-0037